

2006 年度

科目名 教育相談の理論と実際	対象学科・学年 文学部日文3回生 教育福祉3回生 文学部英語3回生 文学部教福3回生 文学部文財3回生 文学部コミ3回生	担当者 西尾 弘
授業テーマ 学校教育における教育相談の理論と実際		
授業の概要と目標 本講座は、教職課程に関する科目の一つとして「生徒指導（教育相談を含む）に関する科目」に位置づけられている。 内容としては、「学校教育相談の理論と実際」をとりあげるが、具体的には学校教育(幼稚園も含む)における教師が行う教育相談の視点などを中核にして講義を進める。また、現代の学校教育の生徒指導の課題である「いじめ」「登校拒否(不登校)」「非行」などに対して、教師が教育相談活動で克服した実践事例を紹介し、レポートでまとめる方法を中心にして学習を深める。		
評価方法 ○ 実践資料のレポート（2枚、50%）・期末の記述テスト（25%）・授業の出席とアンケート（25%）の三つを統合する。 ○ 教育実習（6月）参加学生には「子どもの“こころ”の発見記録」の宿題をもって出席の評価とする。		
テキスト 毎授業時にレジュメを配付するので、テキストは使用しない。	著者	出版社
参考書 授業時のレジュメの中で、適宜紹介する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 学校教育における教育相談活動（カウンセリング）の必要性和その視点 2. 子どもたちの心の健康と「思春期の子どもの悩み」の理解 ～中・高校生の悩みの具体例を中心に～ 3. 学級担任教師が行うカウンセリングの実際 ～「非行」中学生に対する学級担任のカウンセリングの実践例を中心に～ 4. 子どもから学んだ人間理解の視点と生徒指導の原理 5. 生徒指導とカウンセリングの原理の共通点 6. 教育相談活動（カウンセリング）の視点からみた子ども理解の実際 7. 「登校拒否」事例から考える学校カウンセリングの4視点とその機能 [4週間分を配当] 8. 「非行」事例から考える学校カウンセリングの内容の定義づけ ～学校カウンセリングの「援助的人間関係」の意味について～ 9. 学校カウンセリングの視点からみた家庭と学校との連携の実際 ～「学校カウンセリングは親子への援助的人間関係を含む」を中心に～ （注） 上記の項目は、木曜日1時限(文学部教福)と木曜日2時限(文学部日文・英語・文財・コミ)に共通する内容である。 なお、木曜日1時限(文学部教福)の教育実習期間（4週間）は、不参加者に対するカウンセリング演習などを行う。		